

【卓球】

全日本卓球選手権

1月14日(月)から20日(日)まで、平成30年度全日本卓球選手権大会(一般・ジュニアの部)が開催されました。JOCエリートアカデミーからは、浅津君、柏君、宇田君、長崎さん、張本君、木原さん、小塩さんの7名が出場しました。

《男子シングルス》

昨年度優勝の張本君に連覇の期待がかかりましたが、準決勝敗退となりました。宇田君は4回戦でシード選手を破り、念願のベスト16入りを果たしました。浅津君は1、2、3回戦で格上の選手に勝利しましたが、4回戦で敗れ、ベスト64となりました。

《女子シングルス》

木原さんは4回戦でシード選手を破ると、その後も強豪を次々と破って決勝に進出。女子選手としては史上最年少で決勝進出を果たしました。決勝では、昨年度優勝の伊藤選手に敗れましたが、141名のトップ選手が出場する中、6試合を勝ち抜いたことは、今後の競技生活にとって大きな宝物となることでしょう。

《男子ダブルス》

張本君が愛知工業大学1年生の木造君とペアを組んで出場。準決勝で昨年度優勝ペアに勝利し、決勝に進出しました。決勝は最終ゲームまでもつれ込みましたが、大接戦の末、16対14で勝利し、初優勝を飾りました。



《女子ダブルス》

長崎・木原組がシードで出場、初戦となる4回戦は勝利しましたが、5回戦で敗れ、ベスト16で敗退しました。

《混合ダブルス》

張本・長崎組が出場。試合を重ねる中でコンビネーションが向上し、準決勝では昨年度準優勝ペアに勝利しましたが、決勝で昨年度優勝ペアに敗れ、準優勝となりました。

《ジュニア男子シングルス》

宇田君は初戦から1ゲームも落とさず決勝に進出。決勝では2ゲームを連取し、第3ゲームも3対0とリードしましたが、リズムを崩して第3ゲームを落とすと、第4・第5ゲームもリズムを取り戻す

ことが出来ずに、優勝を逃しました。ジュニアの部への出場は今大会が最後となるだけに、本人にとっても悔しい結果でした。

《ジュニア女子シングルス》

昨年度優勝の長崎さんと準優勝の木原さんは共にシード選手でした。長崎さんは、準決勝までは落ち着いた試合運びとスピードのあるプレーで相手を圧倒しました。しかし、準決勝ではミスが目立ち、ゲームカウント1対3で決勝進出を逃しました。木原さんも準決勝で敗退し、3位という結果に終わりました。

今大会、JOCエリートアカデミーとしての優勝は男子ダブルスだけでしたが、全体としての競技力はさらに高まっていました。その要因として、全日本卓球選手権の組み合わせを見て、しっかり対策を立てていたことや、普段から実施している体カトレーニングの成果などがあげられます。ジュニアの部の他の選手と比較して、より力強いプレーが数多く見られました。また、今大会には、修了生を含めたエリートアカデミー関係選手が、多数出場しており、直接対戦する試合が数多く見られました。これはJOCエリートアカデミー修了後もしっかりと練習を積み、競技力向上が図られている成果です。



《木原さん感想》

「私は、全日本卓球選手権大会の一般の部で準優勝することが出来ました。しかし、ジュニアの部ではベスト4で敗退してしまっても悔しかったです。一般の部で準優勝出来たことは本当に嬉しかったし、大会前に目標にしていた平野美宇選手のところで勝ち上がって勝つという事が目標だったので本当に嬉しくて、信じられなくて現実じゃないみたいでした。その後の試合からは自信になって一試合一試合思い切ってプレーすることが出来て自分の実力を出せたので良かったです。決勝戦では伊藤美誠選手と対戦をして、自分との差を感じる事が多く課題がたくさん見つかったのですごく良い経験になりました。

私が今大会で一番感じたこと・思ったことは、同じぐらいの年の人と対戦する時と自分より強い人と対戦する時で自分のプレーが分かりやすく変わるといって感じました。なので今後は、誰と対戦する時でも思い切って自分のプレーを出したいと思います。全日本卓球選手権大会でたくさんの経験・課題が見つかったのでこれから強化して日本のトップ・世界のトップになれるように誰よりも努力して必ず強くなります。」

【フェンシング】

JOCカップ

第26回JOCジュニアオリンピックカップフェンシング大会が、1月11日から14日の日程で開催されました。この大会では、カデ(17歳以下)とジュニア(20歳以下)の2つのカテゴリーで、フルレ、エペ、サーブルの個人戦が行われます。この大会は、1,000名を超える選手が参加し、世界ジュニア選手権出場を狙っている選手にとってはポイントの比重が大きい、とても重要な大会です。

《ジュニア男子サーブル》

吉田君と坪君が出場し、吉田君が2位、坪君が3位となりました。吉田君は12月に開催された全日本選手権で高校生として初の準決勝進出を果たし、勢いに乗っていましたが、決勝では13対13から2本連取され、惜しくも2位となりました。

坪君は、出場選手の殆どが大学生、若しくは高校3年生という中で奮闘し、インターハイ上位入賞者などを次々に破り準決勝に進みましたが、今大会優勝選手に惜敗し、3位となりました。

《ジュニア女子サーブル》

月野さんは、全日本選手権をきっかけとして力をつけ、今大会で初優勝を果たしました。インターハイ2年連続2位という悔しい思いをしてきただけに、月野さんにとっては大きな初優勝です。月野さんの試合内容は非常に安定しており、準決勝以外は相手に10本以上取らせない、完勝ともいえる内容でした。

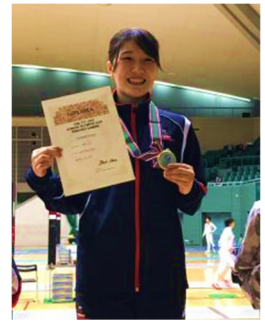
《カデ男子サーブル》

坪君はジュニアで3位となっていることから、試合前から優勝候補の筆頭に挙げられ、そのプレッシャーとの戦いとなりました。決勝では前半1対7と大きくリードされる場面もありましたが、気持ちを切り替えて思い切ったプレーで15対10と挽回し、優勝することができました。

今回出場した3名にとって、これから国際大会が続きます。そこで更に実力をつけ、今期最大の目標である世界ジュニア・カデ選手権では上位進出を果たしとほしいと願っています。

《月野さん感想》

「JOCジュニアオリンピックカップは、JOCエリートアカデミーで出場する最後の試合でした。アジアジュニア、世界ジュニアをかけた試合でもあり、私がこの1年間目標にしていた世界ジュニアに出場するためには、優勝することが絶対でした。私はいつも大事な所で負けてしまうことが多く、それをここで変えるんだという思いで試合に挑みました。トーナメント16から決勝まではリベンジ戦が続きました。最後まで集中力を切らさず、自分のペースで試合を運べたことが勝利につながったと思います。遠征が続くので、海外で結果を残せるように、日々の練習を一生懸命取り組みたいと思います。コーチや支えて下さっている方々に感謝の気持ちを忘れずさらに成長できるよう努力します。」



【カデ男子サーブル優勝の坪君(左)と、ジュニア女子サーブル優勝の月野さん(右)】

【教育プログラム】

栄養教育

今年度2回目となる栄養教育(調理実習)を、1月27日16時から19時まで、SAKURA Diningで開催しました。このプログラムは、エリートアカデミー修了後は



自分で食事を作る機会が増えることから、包丁などの調理器具を使って、料理を自分で作るようになるきっかけ作りで行っています。

今回は「練習後に手軽に作れる食事」というテーマで、「鯖缶とほうれん草のチーズ焼き」など手軽に手に入り、長期保存がきく食材を使って手早く簡単にできる料理を作る。

参加者13名(男子5名、女子8名)が3グループに分かれ、それぞれ思い思いの味付けで料理を作りました。

北区立中学校連合展覧会

2月2日から4日までの3日間、「北トピア」(北区王子)で開催される北区立中学校連合展覧会に野田君(アーチェリー)の美術科作品(絵文字)と技術科作品(椅子)が、北区立稲付中学校の代表として展示されることになりました。

北区立中学校連合展覧会は北区中学校の生徒の日頃の学習の成果を発表するために毎年開催されています。出展されるのは、「書写」「美術科」「技術・家庭科」の3教科の作品です。

【お知らせ】

○平成30年度修了式、送別会

日時 3月17日(日) 13時30分から

場所 味の素ナショナルトレーニングセンター 大研修室

○平成31年度入校式、全体保護者会

日時 4月7日(日) 13時30分から

場所 味の素ナショナルトレーニングセンター 大研修室

公益財団法人 日本オリンピック委員会
JOCエリートアカデミー事業
〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1
味の素ナショナルトレーニングセンター
TEL:03(5963)0355/FAX:03(5963)0356

JOCエリートアカデミーだよりは以下のHPでもご覧いただけます。
<http://www.joc.or.jp/training/ntc/eliteacademy>